

令和4年度学校だより

学校教育目標 自主 責任 明朗



六中だより 9月号

開校43年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-1-1-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：658名



ゴールまでいかに歩みを進めるか
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

さあ、2学期の始まりです。この夏休みは、どのようなものとなったのでしょうか。私は、夏休みに入る前に、このような話を生徒にしました。それは、「本当の意味での平等」についてです。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と福沢諭吉は「学問のすすめ」で説いています。しかし、この続きがあるのはあまり知られていません。

「されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり下人もありて、その有様、雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。」と続きます。

話は変わりまして、ある靴のメーカーであった実話です。この会社は社長のワンマン体制で、給料も社長が決めていました。同じ年齢でも給料が違っていました。それに対して不満を持つ社員もいましたが、何も言えませんでした。社長が亡くなり、不満を持った社員たちが、給料は皆平等にと掲げ、みんなの給料を同じくらいに決めました。ところが、この会社はすぐに倒産してしまいました。なぜかという、どんなに一生懸命働いても、適当にさぼりながら働いても、給料は同じなのです。それならば、適当にやっていた方が楽に決まっています。倒産は必然といえるでしょう。努力した人とさぼった人が同じ給料では果たして平等と言えるのでしょうか。「平等」とは、いっせ

いに差別なくスタートラインに並ぶことです。しかし、100メートルを走り終えるゴールにおいては、個々の能力や努力に応じて差が出てくるのは当然です。もしもゴールが「平等」でなければならぬとしたら、一番遅い人に合わせてゴールしなければならぬという不自然が生じます。仕事に置き換えれば、怠ける人に合わせて「平等」と評価されるので、まじめな人はやる気をなくします。そんな集団は社会では生き残れません。ゴールを「平等」にするという考え方は、実は「悪平等」なのです。

だから、福沢諭吉は、人間は「平等」だとした上で、一人一人の「努力の結果」は様々で、もし幸せを求めるのならば、自らを高める学問をしなければならない。と続けたのです。

靴の会社のように、怠ける人が「平等」を逆手にとることがよくありますが、「平等」は努力によってこそ手に入れることができるのです。努力の度合いによって結果は異なります。皆さんも、「平等」にスタートラインに立っています。しかし、結果は努力によって決まることを忘れないでください。これが本当の意味での「平等」です。と伝えました。

さて、この夏休み。どこまで歩みを進められたでしょうか。ゴールに向かう歩みの足跡は、一人一人の努力の賜物なのです。ゴールはまだ先となりますが、今後の一人一人の歩みに注目しましょう。